

あいさつ

石巻地区広域行政事務組合 理事長 石巻市長 齋藤正美

石巻地区広域行政事務組合消防本部が発足して以来、本年で50年という記念すべき節目の年を迎えました。これまで勤務されてきた消防職員の強い使命感や努力の積み重ねに加え、支えてくださった関係者の皆様の御理解と御協力の賜であると、謹んで敬意と感謝の意を表する次第であります。

本組合消防本部は、昭和46年4月1日に1本部・2署・3分署・2出張所、職員数123名を持って発足以来、半世紀を経て1消防本部・5署・2分署・6出張所、職員357名を有する県内でも大きな規模と組織力を誇る消防本部に発展してまいりました。

しかし、近年の社会情勢や気候の変化等により、火災をはじめとする災害や風水害等の自然災害の様相は複雑多岐にわたっており、これらの災害から地域住民の生命、身体及び財産を守るためには、防災力の一層の向上が不可欠であります。

東日本大震災から今年で11年目をむかえました。この地震による大津波により、私たちがこれまでに経験したことのない未曾有の被害を受けましたが、全国からの御支援や国・県をはじめ、関係各位の皆様の御努力のお陰をもちまして、消防施設も復旧し、復興創生のまちづくりが進んでいることに対し、心から感謝を申し上げます。

この度の「石巻広域消防発足50周年記念誌」の刊行は、過去50年の当組合消防本部の栄光と苦闘の歴史をふり返るとともに、今後の発展への良き道しるべとするため、消防職員すべてが願い、実現したものです。本誌の刊行を通じて、消防職員はもとより、地域で消防活動を担って頂いている消防団の皆様方の士気が一層高まり、また、広く住民の皆様にも消防・防災の重要性を深く認識していただくことにつながれば幸いです。

結びに、この開設50周年を契機として、住民の皆様がふるさとの防災に対する一層の御理解を深めていただきますことを、御祈念申し上げます。



50周年を祝して

石巻地区広域行政事務組合 議会議長 大森秀一

このたび、石巻地区広域行政事務組合消防本部が発足50周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。

皆様方におかれましては、石巻圏域住民18万人の生命、身体及び財産を火災や地震等の災害から保護するとともに、これらの被害を最小限にとどめるため、日夜任務に精励され、献身的に御尽力いただいておりますことに心から敬意を表します。顧みますと、昭和46年4月に1市9町を構成市町とする当組合消防本部が発足し、今年で半世紀となります。

この間、当組合消防本部は、平成17年4月の構成市町における平成の大合併、平成23年3月の当圏域に甚大な被害をもたらした東日本大震災など、取り巻く環境の変化や数々の困難を乗り越えてまいりました一方で、消防署所の整備、消防車両等の更新、資機材の充実など消防力の強化が図られ、近代消防としての体制が著しく向上したものと実感しております。

今後も、皆様方に対する圏域住民の期待は、より高まってくるものと思われませんが、50年の歳月の中で培われ、受け継がれてきた経験や技術力、さらには精神力を遺憾なく発揮していただき、圏域住民の皆様方の安全、安心を守る砦となるべく、なお一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

組合議会といたしましても、皆様方の日々の訓練、たゆまぬ努力の下に圏域住民の安全、安心な暮らしがあることを胸に刻み、地域課題の解消に向け皆様方とともに取り組んでまいります。

結びにあたり、本記念誌作成に御尽力いただきました関係各位に感謝申し上げますとともに、石巻地区広域行政事務組合消防本部のさらなる発展と、皆様方のますますの御健勝と御活躍を御祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



50周年に寄せて

石巻地区広域行政事務組合 副理事長 東松島市長 渥美 巖

石巻地区広域行政事務組合消防本部が設立50周年を迎え、このたび記念誌が発刊されることに対し、心よりお祝い申し上げます。

石巻地区広域行政事務組合消防本部は、昭和46年4月に1本部2署3分署2出張所123名の職員で運用を始め、令和3年には1本部5署2分署6出張所357名の職員へと組織の拡充を図り機能強化をされました。また、本市でも平成30年に東松島消防署鳴瀬出張所、令和2年に東松島消防署の移転新築を実施し、消防機能の強化を行いました。2市1町の発展とともに

複雑化・多様化する火災や事故、救急需要に対する消防防災体制の整備を進め、日々、地域住民の生命と財産を守る重要機関として広く認識されております。

歴史を振り返れば、昭和53年の宮城県沖地震、昭和61年の8・5豪雨、平成15年の宮城県北部連続地震など過去に様々な災害に見舞われ、特に、平成23年の東日本大震災では、大津波による未曾有の被害を受けましたが、発災直後より人命救助と行方不明者捜索を最優先に懸命に活動していた消防署員の姿に、地域住民からは厚い信頼と期待が寄せられ、大きな希望を与えたと思います。

近年は、災害が激甚化し、日本各地で大きな被害が生じており、地域住民が安全で安心して暮らせる地域づくりのため、消防行政と関係機関、地域住民が連携し、さらなる努力と精進を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、組合の発展に御尽力を賜りました皆様、記念誌発刊にあたり御尽力を賜りました関係各位に深く感謝を申し上げますとともに、石巻地区広域行政事務組合消防本部のさらなる発展を御祈念申し上げ、発刊の挨拶といたします。



石巻地区広域行政事務組合 理事 女川町長 須田善明

石巻地区広域行政事務組合が設立50周年という節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

本組合は、昭和46年の設立以来、1市9町の組織市町から2市1町への合併を経て、消防事務をはじめとする複数の事務を共同処理するため、日々御尽力いただいておりますことに対し、改めて敬意と感謝を表する次第であります。

この50年間に本地域では、度重なる大規模な自然災害に見舞われ、特に平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、地震と津波により未曾有の被害を受けました。

大震災から11年、令和という新たな時代を迎えた現在では、全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大し、悲痛な日々が続いております。その中でも、医療従事者や消防署員の希望を見据え懸命に励む姿に、多くの方々が勇気付けられてきたことと思います。この50年間の経験をもとに、なお一層地域住民の安全と圏域の発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本記念誌発刊にあたり御尽力いただきました関係者の皆様に心から御礼申し上げますとともに、本組合の益々の発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



50周年をむかえて

石巻地区広域行政事務組合消防長 浜野 淳

昭和46年4月に1市9町により石巻地区広域行政組合消防本部が開設され、本年で50年という節目の年を迎えました。職員定数123人で出発した石巻広域消防が、今日の姿にまで発展した半世紀にわたる歴史を振り返りますと、これまでの組織市町の各首長をはじめ御当局の皆様、組合議員並びに消防団をはじめとする多くの消防関係者、地域の皆様の深い御理解と御協力に改めて深く感謝する次第でございます。また、歴代の消防長、さらには先輩諸氏のご尽力に思い至り、消防活動では、幾千もの災害と果敢に



戦い、圏域住民の安全を守ることに徹し、揺るぎない実績を積み重ねられてきたことに心から敬意を表するものであります。

現在の石巻広域消防は、1本部5署2分署6出張所、消防職員定数357人体制にて石巻圏域住民18万人が安心して暮らせる街づくりを目指し、鋭意努力しているところでございます。

これまでの消防の歴史において、東日本大震災をはじめ、多くの災害を経験した私たちは、これを後世に伝え、災害の歴史を無駄にしない新たな消防防災を築き上げ、未来に繋げる先を見据えた消防施策に取り組んでいかなければなりません。

近年、消防を取り巻く環境もめまぐるしい速さで変化しており、各種消防業務の多様化や高度化、救急需要の増加、災害の大規模化など、住民の皆様からの消防に対するニーズはますます増大しております。

石巻広域消防では、常に地域に寄り添い、職員が一丸となって精進を重ね、より強固な消防防災・危機管理体制の構築、さらには消防行政の一層の効率化に向け、最善の努力を傾注してまいります。

結びに、今後とも関係各位のより一層の御支援と御協力をお願いいたしまして、50周年記念誌発刊の御挨拶といたします。

